

# 市民の声

## = 市民の声募集中 =

### 市政に思う

江田島市議会では、市民の声を募集しています。  
《問い合わせ先》議会広報特別委員会 ☎42-6310

#### 江田島市に 来てから



江田島町  
松林 佑樹

さかのぼること7年前、結婚のあいさつに妻の実家を訪ねたのが江田島市への初上陸となりました。海に囲まれた自然環境豊かな島を散策し、温泉に入りながら、こんな環境で暮らしていきたいなと思つたことを覚えています。さて、そんなこんなでおととし2月に江田島市へと移住してきました。もともとは塾講師、自分の教室も持つて、まさにこれからというところでの農家への転身ですから、

大層な理由があるのかとよく聞かれます。全くそんなものはありません、自身でもよくわかつていませんが、本能的に、江田島市に引き寄せられたようなものだと、我ながら勝手に納得しています。しかし、キュウリ栽培の研修生として江田島市に來たのは大正解でした。島の人は親切で、信じられない程にお互いが助け合っています。車で走っている最中、誰かが大仕事をしていれば、車を停

めて何も言わずに手伝います。こんなこと東京では考えられません。尊敬する農家の先輩がさらつとこんなことを言いました。「自分だけ儲かってもつまらん、みんなが儲けにや酒がうまく飲めんよ」と。人が人を蹴落として出世していく大都会東京出身のわたくしにはこの言葉が衝撃的で、しかも真顔でそんなこと言うもんだから、自分の心の汚れがバリバリと剥げ落ちていくような気持ち

でした。研修期間を終え、昨年8月から就農となりました。まだまだ準備が終わらぬ中、せっせと手伝いをしてくださる先輩農家の皆さま、こんな若造を受け入れてくださった島の皆さま、研修を通してお世話になった市の職員の方々、書き切れない程のご縁をいただいた皆さまに、心よりお礼を申し上げます。わたくし松林は粉骨砕身、江田島市のために頑張っています。

#### 農業への思い



能美町  
田中 智

私は、能美町鹿川の出身で、主にトルコキキョウや菊の花、キュウリなどの野菜の栽培をしています。私が小さい頃から両親は農業に携わっていたため、私も大人になったら農業をして両親の手助けをしたいと考えていました。このため、高校は県内の西条農業高校へ進学し、農業の基礎を学びました。また、市場に関する知識も得るため、卒業後は株式会社へ就職し

ました。その後、江田島市の新規就農研修を受け多くの経験を積ませていただきました。田中農園では、約1ヘクタールの面積を家族3人とパートの方々で運営をしており、広島市中央卸売市場や県内の産直市場やスーパーマーケットなどへ出荷をしています。年間では、母の日やお盆、年末など花の需要が高まる時期が特に忙しくなります。私が農業をしてい

て良かったことは、自分で作った花をお客さんが買って喜んでくれた時です。一方で、自然や生き物（農産物）が相手の仕事なので、思い通りの管理がなかなか出来ず、難しいところに苦労しています。自分はサツカーが好きで、仕事の合間には子ども達にサツカーを教えています。また、消防団にも属しており、祭りなど地域のイベントにも積極的に参加をし、地域

の皆さんとの交流を深めています。1人でも多くの方に花を買ってもらい、花の魅力を知ってもらえたら嬉しいです。農業は一筋縄ではないことが多いですが、その分喜びも多く、やりがいがある仕事です。将来は、花農家として父の跡をしっかり継ぎ、さらには江田島市の花を全国に発信できたらと思っています。

#### 江田島の魅力



沖美町  
下河内 昭博

10代の頃、島の外で生活することに慣れていました。実際、大学生、社会人として十数年を島外で暮らしました。そこで、自分が思い描いた暮らしを実現させましたが、何が違うと悩み、島に戻ってきたのが10年前になります。島での働き先も決めずに何をしようかと考えていた矢先、近所の人が声をかけてくれて、花卉栽培に出会いました。昔から花卉栽培が盛んな環境に身を置きながら、実際に花に触れるのはこ

のときが初めてでした。一時的なバイト感覚でのスタートでしたが、気付けば10年。生涯の仕事となっていました。これまで花卉栽培のみで生計を立てるのは無理だと色んな人達に言われてきましたが、私は試行錯誤を繰り返しながら進んできた経験から、できると確信しています。花卉栽培の未来は明るいのです。世の中には自分のような違和感を抱えて暮らしている人たちが

いるのではないかと。実際、老若男女を問わず、田舎へ移住する人たちがテレビや雑誌で目にする機会が増えていきます。特に若い世代は、都会での生活に疲れての移住やのんびりとした子育てをしたいの思いでの移住がよく聞かれます。私は江田島市もこのブームに乗って、新たな移住先としての魅力をどんどん発信してほしいと願っています。この島には花卉以外にも、農林水産業など働く業種が豊富で、若い世代の働

き手を必要としています。また、海も山もあり自然とふれあいながらの子育てもアピールポイントになります。私はこの島に戻り、生涯の職を見つけ、家族を支える大黒柱として充実した毎日を送っています。そんな幸せの輪が増え、江田島市が活気付くお手伝いができればいいなと思う今日この頃です。受け皿が広いのがこの島の魅力。

#### 江田島の農業について考える



沖美町  
山本 満彦

私は、沖美町三高で菊の栽培をしています。菊栽培は祖父の代から始まり、家族経営のため、幼い頃から農業を間近で見えてきたので、就農することには抵抗はありませんでした。農業は基本的に休みがなく、出荷が多い時期は忙しくて大変ですが、自分で色々と考えてできる仕事なので、とてもやりがいがあります。近年は、気温の上昇や天候不順により、栽培が難しく

なっていますが、その中でも常に品質の良い花を作る努力をしています。山本農園では、広島・呉・姫路・東京の市場に菊を出荷しており、呉農協など江田島市内の直売所でも菊の販売をしています。若い世代の方は、花と関わるのが少ないと思いますので、まずは直売所などへ気軽に立ち寄ってもらい、花と触れ合ってもらえたらと思います。

また、私は現在、江田島市農業後継者クラブの会長をさせてもらっており、農業技術の向上や販売促進、イベントなどでのPR活動を江田島市や呉農協と協力して行っています。江田島市は、県内でも若手農業者は多い方ですが、それでも会員は減少しています。温暖な気候のため、花作りには向いている地域だと思いますが、担い手不足により耕作放

棄地が多くなっており、荒地地の利用に苦労しています。最後に、江田島市では、新規就農者の支援を行っています。私たちのような若手の農家が手本となり、しっかりとした生活を見せることで仲間を増やせていけたら、もっと良い江田島市にしたいと思っています。